

まはる水車、走る小舟

小島 その

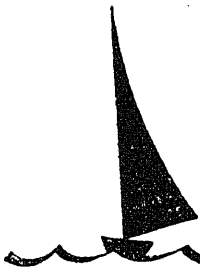
楽しい水遊びの時節が訪れて参りました、これからは、

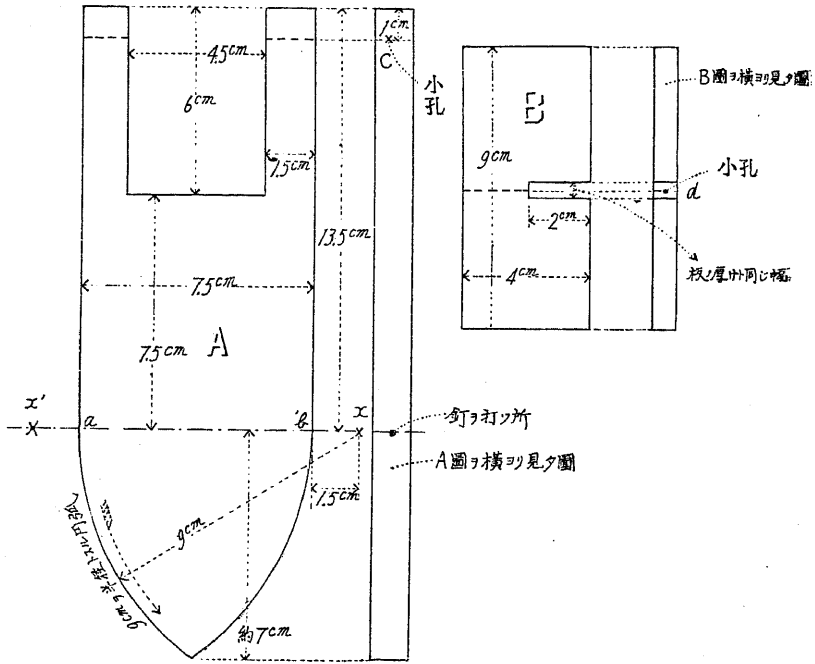
お池にお砂場に或は水道の流しにまでも、到るころにこの遊びがはじめられることで御座いませう、あの暑い日向のお砂場で、子供達は毎日毎日大きなお池作りに夢中になつて居りました。大きいバケツでむかふの水道から二三人

で水を運んで参りますよ、この水が、あの小さな手で一生懸命に掘られた池の中にザーツミ、音を立てゝあけられます、この時の本當に満足気な子供の顔、ぎろのはねだらけの可愛い顔、先生の方もしばらくは、ジーツミこの様子を看守つて居りました、がすぐその次にはこの様なことを考へずには居られません、「早く止めさせなければ大變だ、もうあんなにズボンもエプロンも水だらけになつてゐる」しかしこんな折角面白くて夢中になつてゐるのに、この様な大人の考へだけで子供の大事な遊びの邪魔をして

はミ考へますミ無理に止める事も出来ません。

この様なことがつゞきますミ毎日朝から、ミウか今日は砂場に入らぬ様にミ種々子供の氣持を他に向け様ミ苦心してみますが、一度面白さを味はつたものでも、子供は外に出るミすぐ又昨日のつゞきををはじめます、「もう病氣になりますから止めませう」ミ口だけでは止めては見ますが、三度に一度は少し位は、ミいふ事になります、先づ第一に止めるよりも、もつゞく子供今の氣持に叶つた、そしてこのミろ水遊びよりも、もつゞ満足を與へるミこの出来る様な遊びは無いものかしら、ミ毎

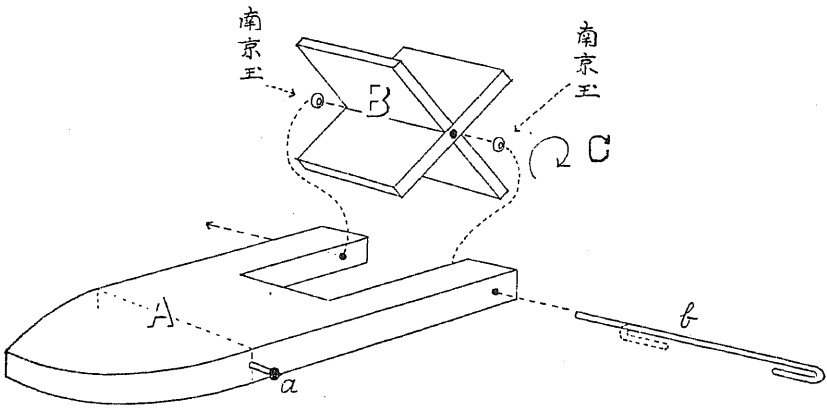




日考へて居りましたところ、ふき或日胸に浮びましたが、まはる水車を走るお舟でした、これを子供一しよに作つてあのお部屋の水道の流しで遊んだなら、試みに急拵へのもをすぐ翌日用ひてみましたところ、うれしいこゝに成功でした、しかしこれも長續きはいたしませんでしたが、正直なところこの先生にござりましたは、一日でも二日でもあの砂場のさろ遊びから遠ざかるこゝさえ出来たならこの念願であつたのです、これからこゝに作り方をのべさせていたゞきます水車舟はこんな動機から作られたので御座います。何かのお役に立ちましたら幸ひ存じます。

走る小舟

材料をいたしましては厚さ一厘半位の板が適當に存じます、圖を御覽下さいませ



せば大體はお解り
りで御座いませ
うが大切な部分
を説明いたしま
せう。

第一圖Aの船
首の曲線は之
は直線abを兩
方に一糎半づ
つ延長して夫
夫xx'の二點を
求めそれ等を
中心としてax
bx'を半径とし
て圓弧をかい
て作つた線で
す。

同じ第一圖AのCは小孔でこの孔は、入れ
るべき針金がゆつくり入る様に開け、圖B
のdの小孔は入れるべき針金に對してきつ
い位に開けます。

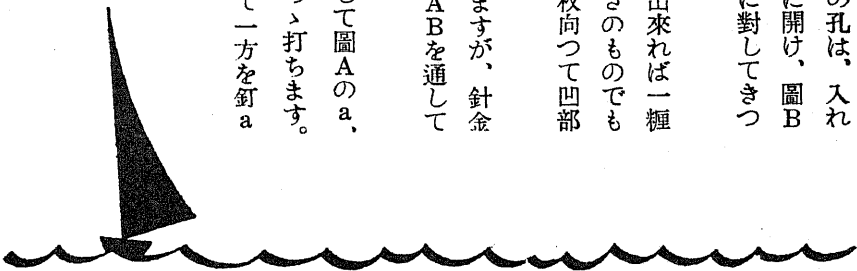
圖B凹形のもものは板の厚さは出来れば一糎
か八耗位がよく圖Aと同じ厚さのもので
よろしいと思ひます、之は二枚向つて凹部
を組合せ水かきまします。

次に第二圖、組立て、御座いますが、針金
bを片方だけを圖の様に曲げABを通して
から他の方も同様に曲げます。

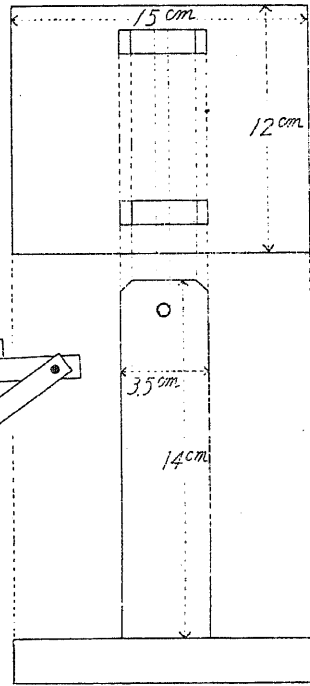
次に釘aは頭の部分二糎位残して圖Aのa、
bの位置に舟の兩側より一本づゝ打ちます。
最後に輪ゴムを二本位つなげて一方を釘a

に、他方を針金Bの輪の中
に入れ、他の側も同様に致
しゴムを針金bにきく様に

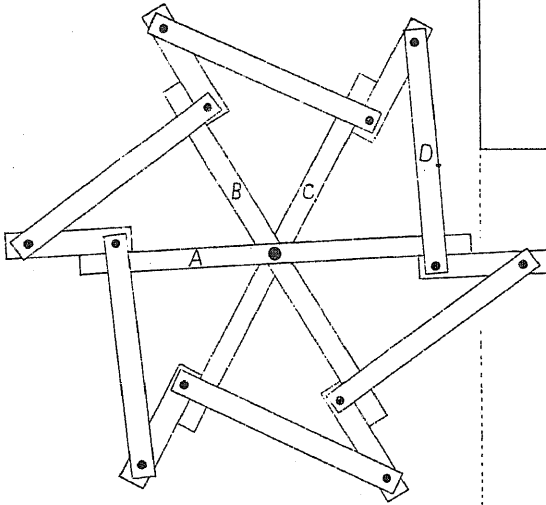
水かき車を矢C(第二圖の



下圖ヲミテ見ケル圖



水車の台



B圖の方向にまはして水中に浮べてはなせば、パチャパチャ水を飛ばして氣持よく泳ぎます、尙針金は成べく太いもの（直径一耗半位）が適當です。

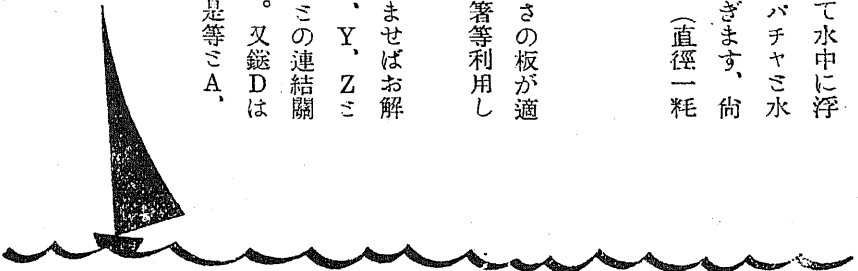
まわる水車

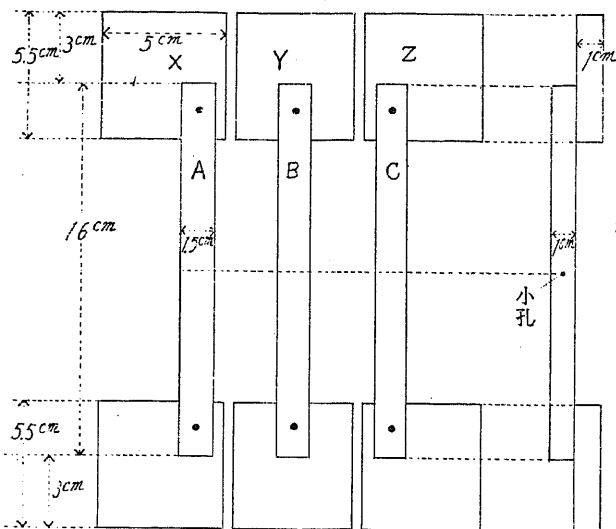
材料としては一耗の厚さの板が適當でせうが、空箱、割箸等利用しても結構です。

これも圖を御覽下さいませばお解りでせうが、四角板X、Y、Zとその支へ棒A、B、Cとの連結關係に御注意下さいませ。又鏝Dは皆で十二本要します、是等ミA、

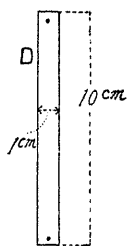
B、Cの先の四角板との連結關係も

圖の如く上、下、上、下、ミ四角板の





右圖より見たる圖



兩側に小釘で打ちつけければよろしいのです。
 又この水車は四角板が六枚ですが八枚十枚
 と御自由にお定めになれば一層立派な軽々
 とまはるものが出来ます。
 又水車の臺の支へに水車との間に前の舟の
 様に南京玉を三つ位づつ入れます最後にこ
 の水車は砂を小孔より車上に落しにしても
 又面白いものが出来ます。
 以上二つの小舟と水車はこれを一しよに舟
 の方にさりつけましても、大さう面白く舟の
 走るの水車の廻るのが同時に見られます。
 これ等は極めて簡単な作り方で、材料も又ビ
 ールの空箱はお舟に、お菓子の折箱は水車
 に、丁度適當と存じます。お舟の形も、子供
 の手で作りますのでして、形
 はごの様に整はなくても動く
 こきによつて子供達は喜んで
 にか満足出来ると思ひます。

